

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000523		
法人名	株式会社アイリスマーク		
事業所名	ふれあい～朝里		
所在地	小樽市新光1丁目2番20号		
自己評価作成日	令和2年1月25日	評価結果市町村受理日	令和3年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=tr ue&JlgvsvoCd=0172000523-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和3年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍ではありますが、出来る限り入居者様とご家族様が繋がっていきけるような支援を目指しています。リモート面会や窓越し面会の実施、日々のご様子はこまめにお電話などでご家族様にご報告し、月に一度発行する事業所独自の便りでも入居者様のご様子をお伝えしています。また、近年の自然災害等に備えて非常食の確保や、冬場を想定して熱の確保も行っています。災害を想定した訓練を実施し、職員の意識を高めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バス停から5分程の住宅街に位置する3ユニットの事業所です。当地に開設して17年、地域住民とのつながりを大切に、近隣の福祉施設や幼稚園等との交流を深め、また、管理者は地域の各種会合に参加し「まちづくり」に尽力しています。例年は運営推進会議に併せて開催の家族会では忌憚のない意見を伺い、家族の協力も得て皆で七夕祭りや海鮮焼きを楽しんでいます。健康面では、医療機関との連携や各ユニット週2回の看護師訪問があることで気になる症状を相談しやすく、適切な医療受診につなげています。利用者、家族の安心を支える看取りケアにも取り組んでいます。サービスの質向上に向けた体制が充実し、独自の自己評価表の活用や3つの委員会活動、系列事業所との合同研修や内部研修も計画的に実施しています。今年度は各種行事等は自粛ですが、食の楽しみに力を入れ、利用者それぞれの時間をゆっくり和やかに過ごせる環境作りに取り組み、利用者の安全を担保しつつ、現状でできる活動を模索しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念には地域密着について掲げている。玄関やフロアーの目に付く場所に理念を貼り出し、職員は名札の中にもその用紙を入れいつでも確認できるよう共有に努めている。	理念には、地域に在って利用者その人のこれまでの生活や人生の継続性の支援を謳っています。理念の掲示などで常に確認できる環境を作り、業務やケアサービスの中で理念に沿った実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会やまちづくりの会に参加している。避難訓練の際はご協力をお願いしている。	管理者は地域の各種会合に出席し、地域住民を支える活動に尽力しています。コロナ禍以前は近隣の美容室や喫茶店を利用し、幼稚園児とのふれあいや、ひよっこ踊りなどのボランティアを迎え各種行事で交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関の入り口等に看板やチラシを掲示し、気軽に相談してもらえるような環境にしている。最近はお電話等で連絡をくださる方もいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	現在の取り組みや課題について話し合いを行っている。現在は感染症予防の観点から外部の方は招いていないが必要に応じてお電話などで意見を頂いている。ご家族へも議事録を郵送し話し合いの内容がわかるようにしている。	例年は地域代表や知見者、地域包括支援センター職員が参加し、家族も多数参加しています。定例報告の他、避難訓練や感染症対策等の議題で意見交換をしています。今年度は6回の開催を予定し、事業所内会議として家族に報告書を送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組みについて疑問点があったりアドバイスが必要な時には必ず介護保険課へ相談し意見を求めている。	管理者を中心に行政と協力関係を築いています。感染症対策においては市介護保険課や保健所と随時情報を共有し、指示等を仰いでいます。地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成事業でも役員や講師を担っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止身体拘束廃止委員会を設置しており、職員へ身体拘束についての呼びかけを行っている。また、社内研修を実施し、理解を深めている。玄関の施錠は入居者へ危険がある場合以外は基本的に行っていない。	身体拘束適正化の指針の下、2か月毎に委員会と年2回の勉強会を実施し、全職員と共有を図っています。気になる言葉遣いなどは毎月ミーティング時に振り返り、確認しています。玄関の施錠を含め、拘束や抑圧感のないケアの実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止身体拘束廃止委員会では定期的に虐待について話し合いや呼びかけを行っている。最近の高齢者施設での事件やニュースを取り上げ意識を高めている。社内研修等も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、研修等への参加は難しいが、必要に応じて職員間で話し合ったり、社内研修を実施している。成年後見制度を利用していた入居者もいた。入居者の現状や今後を見越してどのような活用が出来るか話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まずはご本人やご家族のお話を傾聴し、疑問や不安を少しでも解消できるよう努めている。その上で事業者の契約に理解・納得を頂けるよう十分に説明を行なっている。改定がある場合には運営推進会議で説明の上、同意書を頂く場合もある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は運営推進会議にご家族を招くことが出来ない為、日頃からのコミュニケーションをより一層密にし、意見や要望を伝えてもらいやすい環境づくりに努めている。	コロナ禍以前は、運営推進会議に続けて家族会を行い、意見や要望等を聞く機会としています。感染症対策上自由な面会は自粛しており、利用者の様子は主に電話で伝え、家族の意向を聞き取るようにしています。毎月個別の手紙と通信、時には号外も送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者等は会議で話し合いを行なっている。他の職員には1年に数回個人面談がありその際に意見をもらっている。	毎月の会議で職員の意見を吸い上げ、個別に話を聞く機会も設けています。職員全員が各委員会に所属し、その活動でも意見等を発言しています。正職員、スタッフ其々の自己評価表を基に面談を行い、向上心を支えつつ就労環境の整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の自己評価表を作成し、それをもとに評価を行なっている。また個人面談を実施し意見や要望などを聞いている。日頃から職員の様子に目を配り職場環境等の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は難しかったが、今後はリモートなどを活用して研修を受けられるようやっていきたい。また、日頃からケアにおける疑問点や意見はすぐに話し合い職員の様子把握に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	相互訪問や外部研修への参加は難しかったが、今後はコロナ禍において他の施設との情報共有を行っていききたい。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りご本人の話を傾聴する機会を設けて、信頼関係を築けるよう努めている。		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限りご家族の話を傾聴する機会を設けて、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを重ねて支援を見極めている。職員間でも情報を共有し支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から何事も“一緒に”を念頭においている。入居者と職員が声を掛け合い、垣根を越えた支援を目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでもコミュニケーションをとり、ご家族の意見や要望を大切にしている。何でも協力しますとおっしゃって下さるご家族がほとんどです。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人に手紙を書かれたり、ひいきにしていたお店の方が訪ねて来られたこともあった。問い合わせがあった場合は出来る限りリモートや窓越しでも面会できるよう努めている。	これまでの関係性の継続を大切に、電話や手紙等のやり取りを支援しています。馴染みの飲食店の店主が訪ねて来たり、家族と自宅帰宅や墓参りに行く場合もあります。今年度は直接的なふれあいは困難な状況です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の中に入り、話し相手や楽しい雰囲気作りに努めている。一人一人への声かけや関わり合いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去された方はその後わざわざご挨拶に来て下さる方もいる。必要に応じて経過をフォローしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を傾聴する機会を設けて、思いや要望等の意見の把握に努めている。困難な場合にはご家族等のご意見も頂きながら検討している。	日常の中で思いを聞き、体調面や生理的な欲求は表情や行動などで察し対応しています。本人のコミュニケーション力に応じて2者択一の選択をして貰うなど、意向や希望の汲み取りに努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お話を傾聴する以外にも、アセスメントシートをお渡しし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めた上で、日々の様子や変化等は申し送りや日誌で情報の共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議以外にも日頃から、ご本人やご家族、職員や看護師等の意見を参考に計画作成に努めている。	利用者の状況は日々の申し送りやカンファレンスで共有しています。介護計画は3ヵ月毎に見直し、サービス担当者会議で本人、家族、看護師など、それぞれの意見を踏まえて協議し、計画を立案しています。計画の実践を詳細に記録し、次回の計画作成に生かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から1日の様子を詳しく記録に残している。些細な気づきや変化も日誌等を利用し共有し、ケアの実践や計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から些細な変化に気づけるよう記録や情報共有に努めている。また、支援の方法やサービスの種類等も出来る限り把握し、ご本人に合った支援を目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の心身の力が出来る限り発揮できるよう、地域資源の把握と活用に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切にしており、可能な限りご希望される主治医に診てもらっている。以前とかかりつけ医が変わる場合にはしっかりとご本人やご家族に理解してもらえるよう対応している。	本人、家族の希望を優先した受診支援であり、訪問診療を受けている人もいます。外来受診は家族と職員が協力し、家族同行の場合は生活記録表を渡し、スムーズに受診できるようにしています。事業所全体で週5日看護師の訪問があり、速やかな指示が得られています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必ず申し送りをを行い日々の様子を伝えている。また、些細な変化や受診の必要性等様々な相談をし意見をもらっている。看護師も各フロアをこまめに回り、情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ご家族や病院のケースワーカーと蜜に連絡を取っている。普段からコミュニケーションを重ねることでお互いの意見や要望を話しやすくしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、日頃のコミュニケーションに加えて、改めてご本人やご家族にお話する機会をとり、考えてもらえる時間を作っている。また、支援の方法や方針は事業所だけでなく関係者皆で共有できるよう努めている。	重度化や終末期の在り方は、契約時や段階を踏んで話し合う機会を設けています。看取りケアを実践しており、事前確認書と同意書を交わしています。看取り介護マニュアルが作成されており、個別のケア方法を職員間で共有し、本人、家族の希望に寄り添い応えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時の訓練やAEDの訓練を定期的に行い意識を高めている。防災委員会でその内容を取り上げて共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した避難訓練を行なっている。非常食や冬場の熱の確保も行っている。近年の様々な自然災害を想定し、訓練がマンネリ化しないよう努めている。	今年度は、感染症対策を取りながら3回の自主避難訓練と2回の総合訓練を実施し、事後の振り返りを行っています。系列事業所との連携体制を整え、近隣の福祉施設や住民と協力関係を築いています。非常用食や備蓄品、停電時対応に暖房機器等を準備しています。	非常災害対策計画を策定しています。土砂災害などの非常時について更なる対応策を検討する意向ですので、避難場所までの避難誘導訓練等も含め、その取り組みに期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や習慣の把握に努めている。声のトーンや大きさ、話す内容には注意している。委員会等でも呼びかけを行い、意識を高めている。	接遇面については入職時研修や認知症利用者の立場に置き換えて考える法人内研修を実施し、利用者の尊厳に対する意識啓発を図っています。職員は明るく穏やかに接しており、個人記録等の管理保管も適切に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に最初は必ずご本人の希望を伺うようにしている。困難な場合でも選択肢を用意し出来るだけ自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人のペースや暮らし方を大切にしている。コミュニケーションを重ねて希望を話しやすい環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や髪型の希望だけでなく、女性は化粧品や髪飾りなどの希望も聞いている。男性にも洋服や髭剃り等の希望を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態はご本人の状態に合わせてこまめに変更している。出来るだけ好き嫌いの要望にも応えている。食器拭きやテーブル拭きのお手伝いをして下さる。皆さん、美味しいとおっしゃって下さっている。	ユニット毎に好みや嚥下状況に応じ、嗜好を考慮し代替え食も用意しています。年に数回栄養士に摂取カロリーを確認しています。食事作りは利用者の出来ることを一緒に行い、誕生日はケーキで祝い、庭先でのランチ弁当、季節の行事食や外食も取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて摂取量をチェックして声かけを行っている。カロリー計算を定期的に行い、バランスの取れた食事作りを目指している。摂取量にムラがある場合は工夫をして安定を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施や仕上げの介助等を行なう他に、必要に応じて居宅療養管理指導を利用している。嚥下体操は毎日実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、出来るだけオムツの使用が減らせるよう支援している。日中と夜間で対応をこまめに変えている。トイレを使用出来なくなってもポータブルトイレや介助の方法を検討してなるべく自力で排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄支援を基本にしています。個々の排泄機能やパターンにより、時間やサインを察して支援し、入居後にリハビリパンツから布下着に変更した事例もあります。二人介助やポータブルトイレの使用、時間や状態によるパット類の使い分けなどきめ細かく対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や水分摂取の声かけを行い、食べ物への配慮も出来る限り行なっている。排便の状態を観察し、必要に応じて医師や看護師に相談もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	その日の様子や気分等を伺い、無理の無いように対応している。時間は自由に行なえていないが、入る順番やタイミングなど出来る限りご本人の希望を聞いている。	個々に最低週2回午後5時の時間で入浴しています。入浴方法や湯加減などは希望に沿い、シャワー浴や清拭も取り入れ、状況に応じて支援方法を変更しています。1対1のリラックスタイムが楽しい会話を誘っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体の状態やその時の様子で横になって頂く時間を作る等の対応をしている。安心して眠ってもらえるよう声掛けや対応に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って確実な服用を行なっている。薬の種類や変更等は職員間で共有するよう日誌等を用いて努めている。必要に応じて薬剤師に確認したり、看護師の意見を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴や嗜好に合わせて、お手伝いやレクの対応をしている。ケアプランに活かして、継続して支援できるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外出の希望を叶えられてはいないが、買い物や要望など出来る限り対応している。また、ご家族へのご協力も願っている。	通常時はユニット毎に戸外活動を行っています。現在は殆どの行事を自粛していますので、窓から桜や木々、車の往来を眺め、時には周辺を散歩しています。買い物は職員が代行したりネット利用で支援しています。今後は感染症対策を図りながら、現状でできる活動を検討したいとしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族や事業所が管理をしているが、希望がある場合は同意書をご用意し、出来る限り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は対応している。ご家族から連絡が来ることも多い。お手紙を書いたり、ご友人から電話が来る方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や照明の明るさ、室温・湿度には気を配り、快適に過ごせるよう支援している。障害物等にも配慮し、季節の飾りや玄関のお花などは定期的に交換している。	共用空間は広く、食卓やソファのほかに廊下にもベンチを配置し、自由に過ごせる居場所を作っています。温・湿度管理や明るさなど気になる刺激に配慮しています。お雛様や職員作成のタペストリーなどで季節感や温かい雰囲気を作り、玄関ホールにも四季折々に花を飾り、来訪者を心地よく迎えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの座席の位置等に配慮し思い思いに過ごせるようにしている。フロアから少し離れた椅子には入居者がたまに座って外を眺めたりされている。食卓で気の合った入居者同士でよく談笑されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものをお持ちになる方が多く、写真や絵を飾っている方もいる。ご本人の体の状態に合わせて出来る限り希望に添えるよう支援している。	個々の居室には、自宅から家具や仏壇、家族写真や趣味の手芸品等を持参しています。状態の変化に応じて、本人にとって居心地よい環境になるよう、家族とも相談して支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印やわかりやすいマーク等で出来る限りご本人の力で生活できるよう支援している。		